

高規格救急自動車ってなに？

救急救命士制度が導入され、より高度な救命処置などができるように、さまざまな資器材が積載された車両のことです。

高規格救急自動車では、重篤な傷病者（心肺停止など）を医療機関までの搬送中に医療行為を行えるよう、従来の救急自動車よりも揺れが軽減されています。また、天井も高くなったりしていますが、車内の高さが「人が立って乗れる」という点では従来の救急自動車と共通しています。

新たに配備された高規格救急自動車も、救急搬送時には高度な処置が行うことができ、適切な処置を行い病院に搬送することが可能となることから、今後の活躍が期待されます。



旧・高規格救急自動車



新・高規格救急自動車



高性能の高規格救急自動車納車

紋別地区消防組合消防署雄武支署に配備

雄武町では、安心・安全なまちづくりを推進するため、平成17年の購入から16年間にわたって活躍した救急自動車および車両搭載の医療機器を更新し、3月7日の消防の日にお披露目がされました。

新しく配備された車両は、新型コロナウイルス感染症にも対応した高規格救急自動車で、3月6日に納車され、運用に向けた訓練を経て3月22日から運用が開始されました。

感染症予防対策として、東京消防庁配備モデルであるオゾン式殺菌装置を導入し、ウイルス感染症の除染・殺菌分解に適応しており、新型コロナウイルス感染症のほか、インフルエンザウイルス、MERS、SARSなどの感染症予防にも効果が期待されています。

また、二次感染リスク軽減を目的とした高集塵機能を誇るULPAフィルターを採用した「搬送用アイソレーター装置」を装備し、救急隊員の感染リスク軽減を図ることを可能にする仕様になっているほか、最新の医療機器を配備しており、なかでも自動心臓マッサージシステムは、良質な心臓マッサージを自動で絶え間なく行うことができ、心肺蘇生率の向上



↑新しく導入された自動心臓マッサージシステムを使った心肺蘇生への切り替え



↑傷病者への初動の心肺蘇生



↑傷病者の意識確認



↑救急自動車までの搬送



↑除細動器（写真右）による心電図測定



↑傷病者への輸液対応

訓練の様子



↑高規格救急自動車の説明を受ける石井町長（左）

が期待されます。

車両本体についても、緊急走行時の安全面を考慮し赤色灯の追加や、車両周囲を再帰性に富んだ反射材を採用したことで、車両の視認性が高く現場活動においても安全性を高めた装備となっています。

日頃からさまざまな症例に合わせて訓練を重ねた救急隊員が、新しく配備された救急自動車、資器材を最大限に活用した、安心・安全なまち雄武町を目指します。

今後も救命率向上を目指し、さらなる住民サービスを提供できるよう努めます。